日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805　東京都新宿区矢来町 65
電話 03（5228）3171　FAX 03（5228）3175
発行者　総主事　司祭　矢萩新一

「いのち尊厳限りないもの　②」

～ 仕えびとであり続けるために ～

管区事務所総主事　司祭　エッサイ　矢萩新一

「101年前のあの日、関東大震災によって犠牲となった方々、避難生活をする中で偏見と差別によって犠牲となった朝鮮人や中国人の虐殺犠牲者の魂の平安を祈ります。教会が当時もその後も虐殺の出来事に口を閉ざし、キリストの愛から遠ざかっていたことを心より懺悔いたします。負の遺産を直視することなく蓋をして、同じ過ちを繰り返さないように、すべての人々の目を開かせてください。そして、私たちがこの歴史を語り継ぎ、すべての人のとなりびととなる愛に生き、和解と平和の器として歩むことができますように、お導きください。」（関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者101年キリスト者追悼祈祷会での祈りより）

1923 年（大正12）9月1日午前11時58分に相模湾を震源とするマグニチュード7.9の大地震が起こり、死者・行方不明者は10万5千にもおよぶ大災害になりました。お昼時ということもあってあちこちで火事が起こり、三日間にわたって類焼して当時の東京市の家屋の6割が焼失してしまいました。地震の直後から、「朝鮮人による放火と暴動」「朝鮮人が井戸に毒を入れた。強盗団となって各地を荒し、女性に暴行を働いている」と根拠のない噂が広げられました。今の時代で言うヘイトスピーチ、ヘイトクライムやフェイクニュースですが、政府はこの流言蜚語に基づいて2日間の戒厳令を発布し、「不逞鮮人が不遇の目的をおこなおうとしているから厳密に取りしまるように」と全国の地方長官に朝鮮人への警戒を呼び掛けました。各地で自警団が組織され、虐殺行為がエスカレートしていきました。多くの中国人や方言を話す地方出身者や視聴覚障がい者までもこの虐殺に巻き込まれて殺され、犠牲者は6千名を超えると言われています。

ウクライナやパレスチナで民間人が犠牲となる悲しいニュースに触れて心を痛めていますが、100年前の日本では偏見と差別によってたくさんの人の命が奪われ、80年前にも戦争という名のもとで近隣諸国の多くの人々の命を奪ってしまいました。今、思わされることは、歴史に学ぶことによって今の時代を顧みて、イエスさまの教えに立ち返って「いのち」を選び取る道をしっかりと見極めることで

□会議・プログラム等予定

（2024 年 9 月 25 日以降・前回未掲載分）

8 月

1 日（木）・6 日（火）年金制度説明会〔Web〕
23 日（金）青年委員会〔Web〕
27 日（火）セーフチャーチ・タスクチーム会議〔管区事務所 +Web〕
28 日（水）神学教理委員会〔管区事務所〕
29 日（木）人権問題担当者会〔Web〕
29 日（木）エキュメニズム委員会・3 教派合同〔Web〕

9 月

2 日（月）主事会議〔管区事務所 +Web〕
3 日（火）～ 5 日（木）管区共通聖職試験〔各教区〕
5 日（木）正義と平和・沖縄プロジェクト会議〔三原 +Web〕
10 日（火）正義と平和・憲法プロジェクト会議〔Web〕
11 日（水）金融資産運用管理チーム会議〔管区事務所〕
11 日（水）青年委員会〔Web〕
13 日（金）正義と平和・ジェンダープロジェクト会議〔札幌キリスト教会〕
16 日（月）祈祷書改正委員会〔Web〕
18 日（水）文書保管委員会〔Web〕
20 日（金）祈祷書改正委員会〔Web〕
24 日（火）セーフチャーチタスクチーム + 女性の聖職位に関わる委員会〔Web〕
24 日（火）ナザレ委員会〔管区事務所〕
25 日（水）管区共通聖職試験委員会〔Web〕
30 日（月）聖公会神学院参与会〔大阪 / ホテル・ザ・ルーテル〕
30 日（月）～ 10 月 2 日（水）定期主教会〔ホテル・ザ・ルーテル、川口基督教会〕

10 月

2 日（水）常議員会〔川口基督教会〕
4 日（金）日韓聖公会宣教協働 40 周年準備会〔Web〕
7 日（月）～ 8 日(火) 人権セミナー〔大阪〕
10 日（木）正義と平和・原発問題プロジェクト会議〔Web〕
12 日（土）日韓聖公会宣教協働 40 周年準備会〔Web〕

（次頁へ続く）

す。自己中心的な思いは、人を疑心暗鬼に陥れ、となりびととなる愛の心を忘れさせてしまいます。

2023年宣教協議会からの呼びかけ、「神・人・世界の声に耳を傾ける」は、ある意味で当たり前の宣教目標かも知れません。しかし、いつもこの原点に立ち返りながら、今の時代に生きる私たちが福音を伝え、福音に生きる仕え人であり続ける秘訣ではないでしょうか。

戦火や災害によって困難のうちにある方々、不安のうちにある方々を主が抱き守ってくださいますように。

□各教区

中部

・第96（定期）教区会　2024年11月23日(土) 10時～16時　〔愛岐伝道区〕主教座聖堂名古屋聖マタイ教会、〔長野伝道区〕長野聖救主教会、〔新潟伝道区〕三条聖母マリア教会

大阪

・第134（臨時）教区会　2024年11月4日(月) 大阪教区主教座聖堂（川口基督教会）　主な議題：大阪教区主教選挙

九州

・教区設立130周年記念礼拝　2024年10月14日（月・休）11時～15時　九州教区主教座聖堂および教区センター

（前頁より）

15日（火）法憲法規委員会〔Web〕
17日（木）正義と平和委員会〔Web〕
19日（土）原発のない世界を求めるZoomカフェ〔Web〕
21日（月）～24日（木）日韓聖公会宣教協働40周年記念大会〔韓国・済州〕
24日（木）日韓合同主教会〔韓国・済州〕
28日（月）年金委員会〔+Web〕
30日（水）収益事業委員会〔管区事務所+Web〕
31日（木）人権問題担当者会議〔Web〕

11月

8日（金）セーフチャーチ・タスクチーム会議〔管区事務所〕
9日（土）ハラスメント防止・対策研修会〔Web〕
15日（金）ハラスメント防止・対策担当者会議〔Web〕
18日（月）主事会議〔管区事務所〕
15日（金）資料保管に関する東西合同協議会〔Web〕
27日（水）正義と平和公開学習会〔聖アンデレ教会+Web〕
30日（土）ハラスメント防止・対策研修会〔Web〕

<関係諸団体会議・他>

9月3日（火）キリスト者狭山要請行動〔日比谷・東京高検・高裁〕
4日（水）～12日（木）セーフチャーチ委員会〔ジンバブエ〕
19日（木）日本キリスト教連合会常任委員会〔Web〕
26日（木）大韓聖公会ソウル教区主教按手式〔韓国・ソウル〕
10月8日（火）NCC常議員会〔Web〕
10日（木）～16日(水)CCEA総会〔フィリピン・マニラ〕
14日（月）九州教区設立130周年記念礼拝
16日（水）・17日（木）日本キリスト教連合会法人事務・会計研修会〔Web〕
18日(金)APN・アジア太平洋地域ネットワークミーティング〔Web〕
21日（月）キリスト者平和ネット運営委員会〔Web〕

†逝去者　霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭　ヨハネ棚原恵正（沖縄教区・退）　2024年8月31日（土）逝去　（83歳）

□主事会議

第 68（定期）総会期第 1 回　2024 年 9 月 2 日(月)

＜主な報告・協議＞

1. 研修支援資金への申請について、8/5-6 広島平和礼拝に参加の京都教区・平安女学院の中高生 7 名への支援(1 人 4,500 円）を承認（メール稟議済追認)。
2. 第 68(定期）総会の決議事項について内容を確認。
3. 管区事務所各主査について、管区事務所総主事からの委嘱を以下の通り承認。
   宣教主査に松浦信司祭（北関東)、渉外主査に八幡眞也さん（東京)、広報主査に阪田隆一さん（横浜)・司祭永谷亮司祭（北海道)・吉村登志子さん（横浜)、財政主査に後藤務さん（東京)・前澤弘之さん（東京）中林三平さん（横浜)・山中一さん（東京)・養田博さん（北関東）
4. 社会事業の日の信施奉献先について、聖社連内で申請先を検討中とのことで、後日メール稟議などで対応することを確認。
5. 研修支援資金への申請について、日韓ユースフォーラム（8/26-30・済州）に参加の宮本樹さん（北海道）への支援（3 万円）を承認（青年委員会からも 3 万円の補助有)。
6. 海外出張について、以下の通り承認。
   セーフチャーチ委員会(9/4-12 ジンバブエ)：吉谷かおるさん（北海道）
   大韓聖公会ソウル教区主教按手式(9/25 ～ 9/27 ソウル）：卓志雄司祭（東京）
   CCEA 総会(10/10-16 マニラ)：髙橋宏幸主教（東京)、松山健作司祭（京都)、新田紗世さん（東京)、小林真綾さん（神戸)、サイモン・クレイさん（東京）
   日韓聖公会宣教協働 40 周年記念大会（10/21-24 済州）：青年；佐藤萌野さん（東北)、須賀瞳さん（東京)、青年委員；松村希さん（中部)、宣教協働者・韓国出身者；李贊熙司祭（東北)、林永寅司祭（東京)、金大原司祭（東京)、成成鍾司祭（東京)、朴美賢司祭（東京)、姜暁俊司祭（横浜)、金善姫司祭（中部)、丁胤植司祭（中部)、梁權模執事（京都)、任大彬司祭（大阪)、金頭昇司祭（大阪)、韓相敦司祭（大阪)、柳時京司祭（大阪)、李浩平司祭（九州)、金汀洙司祭（沖縄)、高英敦司祭（沖縄)、咸允淑司祭（沖縄)、日韓協働委員；上原成和司祭（沖縄)、池住圭さん（中部)、呉光現さん（大阪)、黒澤圭子さん（東京)、松山健作司祭（京都)、宣教主事；卓志雄司祭（東京・10/20-25）
7. 会議資料のペーパーレス化について、タブレット PC など端末を 15 台ほど揃えるため準備を進めることを承認。

次回会議：2024 年 11 月 18 日（月）

□神学校

ウイリアムス神学館

・2024 年度体験入学　10 月 1 日(火)～ 3 日(木)
問い合わせ：ウイリアムス神学館
〒 602-8011 京都市上京区桜鶴円町 380
Web: https://www.williams-theol.com
E-mail：info@williams-theol.com
☎ 075-431-5406　FAX 075-431-5445

管区・出版物案内

・『2025 年度　教会暦・日課表』

2024 年 10 月 1 日発行　頒価 300 円（税込）

お求めはバイブルハウス南青山 ☎ 03-3567-1995
URL：https://biblehouse.jp/
または、お近くのキリスト教書店にお願いいたします。

≪人事≫

東京

司祭　パウロ宮﨑　光	2024 年 9 月 1 日付	聖救主福祉会において研修プログラムを継続する。渋谷聖公会聖ミカエル教会にて、教区主教指導のもと、主日礼拝協力を命ずる。

神戸

司祭　バルナバ瀬山会治	2024 年 8 月 7 日付	神戸聖ペテロ教会管理牧師を委嘱する。（期間は、オーガスチン小林尚明神戸教区主教の休養期間に限る）
司祭　バルナバ永野拓也	2024 年 8 月 7 日付	呉信愛教会管理牧師を委嘱する。（期間は、オーガスチン小林尚明神戸教区主教の休養期間に限る）
司祭　ダビデ林　和広	2024 年 8 月 12 日付	洲本眞光教会管理牧師を委嘱する。（期間は、オーガスチン小林尚明神戸教区主教の休養期間に限る）

≪管区事務所　『改正祈祷書』試用版についてのご案内≫

・『改正祈祷書　詩編』（試用第 1 版）日本聖公会　祈祷書改正委員会 2024.4 発行：
　頒価　200 円（税込み）＋送料
・『改正祈祷書　教会問答』（試用第 1 版）日本聖公会　祈祷書改正委員会 2024.8 発行：
　頒価　無料＋送料のみ

☆このコラムの発行物取り扱いは、管区事務所に限定されています。バイブルハウス南青山または、お近くの書店でご購入できません。ご希望の方は管区事務所に直接ご連絡ください。
☆『管区事務所だより第 398 号』にてご案内いたしました通り、改正祈祷書試用版オンライン配布の準備は整いましたが、ダウンロードなさる場合は専用の Web サイトからお願いいたします。
☆ご意見をお寄せいただく場合も、各教会に別途お知らせしております Web サイトのフォームをご利用ください。また、書面でのご意見は、管区事務所宛にお願いいたします。（その際は、「改正祈祷書試用版フィードバック」とお書き添えください。）

今後とも、祈祷書改正の働きのためにお祈りとご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日本聖公会管区事務所：問合せ電話番号　03-5228-3171

□「代祷表 2025 年」について

ACP（Anglican Cycle of Prayer）発行の代祷表（翻訳版）は、『管区事務所だより』の同封物として奇数月にご送付させていただいております。「代祷表 2025 年 1 月・2 月」は、9 月号に同封いたします。資料データは仕上がり次第、管区事務所の HP にもアップロードいたしますので、同 HP よりダウンロードし、ご活用いただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。　管区事務所

特集／平和礼拝　2024

『聴くこと』の意味を考えた 広島平和礼拝　2024

＝ヒロシマを通して世界平和を祈る＝

広島平和礼拝実行委員長
広島復活教会　司祭　バルナバ 永野拓也

今年も、8月5日6日の二日間、「広島平和礼拝」を行なうことができました。今年は、全国の教会の信徒さんや関係学校の生徒さんの方だけではなく、海外の聖公会から参加してくださった方や初めて教会に足を運んでくださった参加者もおり、感謝申し上げます。

広島に原爆が投下されて60年目の翌年から始められた「広島平和礼拝」は、今では毎年当たり前に行なわれる「礼拝」になったように思います。これまで開催のために尽力してこられた方々の働きを思うと頭が下がります。

一方で、教会の中で表立っては語られないものの、「私はこの日のことを、未だに皆で祈る気持ちになれない」「みんなで集まる大きなイベントにして、本当に逝去者の追悼になっているのか」という被爆者の方たちの声があるのも事実です。実は、教会委員会の中では改めて「広島平和礼拝」を実行する是非について、話し合う機会がありました。そこでは、教会委員の皆さんが自分の思いを語り合い、忌憚のない分かち合いの時になりました。そのような、背景があったからこそ、今年の広島平和礼拝の主題聖句は、詩編95編7節の「まことに、主こそ我らの神。私たちはその牧場の民、御手の羊。あなたがたは今日、主の声を聞きなさい」にさせていただきました。毎回の実行委員会でも、委員それぞれの「ヒロシマ」や「平和」「広島平和礼拝」の思いを互いに聞き合うことを大切にしながら、準備を進めていきました。

現在、広島では被爆者の高齢化が大きな課題になっています。つまり、被爆の実相を次の世代にどのように伝えていくかということです。そのため、被爆体験を語る役割を若い世代の人々に継承していく試みがなされています。そのような文脈の中で、今回被爆証言をしてくださった月下先生（日本基督教団牧師）も、「平和ということが何なのか?」ということを、広島平和記念公園で毎年実施される「平和記念式典」の中の、子どもたちの「平和の誓い」の文章を紹介しながら語っていただきました。被爆地広島に生きる、子どもたちが考えた「平和」への思いを聴くこともできました。一方で、現在広島の「平和教育」の中で課題にされているのが、「原爆の実相」を伝えることに注力するあまり、「平和」そのものについて考える可能性を狭めているのではないかということです。

そのような、「広島を伝えること」「平和を考えること」という課題を抱えている広島の中で、行われた「広島平和礼拝2024」において、私が皆さんにお伝えしたいのは、毎年行なわれている、ローマ・カトリック教会との「平和のためのつどい」での出来事です。毎年、ローマ・カトリック教会と聖公会で式文を作成し、合同でお祈りの時を持っているのですが、今回はウクライナやパレスチナの平和を求める祈りが初めて入れられました。原爆の被爆者や逝去者のために祈ることも大切なことですが、ヒロシマを通して「世界の平和」を、原爆で逝去された方たちの供養塔の前で祈ったということに、大きな意味があったと感じています。

広島平和礼拝に毎年参加してくださる方、初めて参加してくださった方、それぞれの文脈の中で、被爆証言を聞き、カトリック教会と共に祈り、そして最後に「聖餐式」を行なえたことを感謝いたします。聖餐式の途中、8時15分を前にして「沈黙」の時を持ちました。イエスさまに集められた私たちが、「沈黙」の中で、神さまの声に耳を傾け、キリストの平和を願い、79年前この瞬間まで“普通”の生活を送っていた被爆者や逝去者の声にならない声に耳を傾けられたように感じています。礼拝を終え、今それぞれの生活の場に派遣されている私たちですが、ヒロシマを通して「キリストの平和」を実現するものとして、小さな種まきを続けていければと切に願います。

最後になりますが、暑い中参加してくださった皆様に感謝を申し上げると共に、広島の原爆によって今なお悲嘆の中にある人々と、世を去った人々のことを引き続きお祈りいただければと思います。「キリストの平和」が私たちと一人ひとりの中で大きくなり、戦争や紛争、だけではなく構造的暴力によって苦しめられている人々の心のうめきを、聴くことのできる心が私たちに与えられることを、神さまに願い求めていきたいと思います。

被爆79年　長崎原爆記念礼拝　報告

ー 宣教協働の中での祈りをささげ、被爆証言を聞く ー

長崎聖三一教会　司祭　バルナバ 牛島幹夫

長崎に原爆が投下された日から79年目の8月9日、長崎聖三一教会で長崎原爆記念礼拝が今年も行なわれました。コロナ禍で規模を縮小しての開催が数年続いた上、昨年は台風の直撃でプログラム変更を余儀なくされたこともあり、久し振りにコロナ禍以前の形に戻っての礼拝開催となりました。

礼拝の司式・説教は武藤謙一主教（九州教区主教・神戸教区管理主教）。また、上原榮正主教（沖縄教区主教）が共同司式されました。西日本宣教協働区を構成する神戸教区、九州教区、沖縄教区では、平和のために祈る取り組みを宣教協働の中で大切にしており、宣教協働の取り組みとして沖縄慰霊の日の礼拝、広島平和礼拝、長崎原爆記念礼拝に互いに出席しあうこととしています。この日の礼拝も3教区それぞれの聖職が司式者団に加わり、またそれぞれの教区からの出席者と共に礼拝を守ることができました。また、東京教区、横浜教区からも出席者があり、総勢54名で礼拝を守りました。

10時半から始まった礼拝では、聖書のみ言葉に耳を傾けた後に11時2分を挟んで少し長めの黙祷の時間が持たれました。この黙祷の時間、礼拝堂の窓が開けられると街の音が聞こえてきました。11時2分には教会の鐘が鳴らされ、港に停泊中の船が鳴らす汽笛の音も聞こえてきました。この時間、長崎市内は慰霊のための祈りに包まれていたと思います。

この日説教者を務めた武藤謙一主教は、説教の中で「戦争や紛争を生むのは、他者への怖れや恐怖である。怖れは疑心や断絶を生み、それが暴力へとつながる。怖れを手放し、怖れから解放されるために祈りが必要だ。祈りは平和を作る働きの土台となる。わたしたちは祈りを通して平和を与えてくださる方とつながっている。」と語られ、「日常の生活の中で平和を作り続けるものになるように。」と勧められました。

また、原爆で犠牲となった長崎聖三一教会信徒29名の名前が記されたプレートの前へ参加者一同で献花し、原爆受難者の魂の平安のために祈り、平和への誓いを新たにしました。

礼拝後には、長崎名物皿うどんが教会から提供され、皆で昼食を共にして交わりを深めることができました。コロナ禍において、食事を共にすることが忌避されるような事態が長く続いていましたが、いろいろなところから集まったものが、食卓を囲み時間を共にすることの喜びを改めて

感じる時となったように思います。

昼食後に平和プログラムとして被爆証言を聞く機会を設けました。講師として森内實さんをお招きし、被爆証言に耳を傾けました。森内さんは8歳の時に被爆し目にしたこと体験したこと、その後、様々な病気に苦しんできたことをお話しくださいました。「まだ小さい時のことなので、当時の生活のことなどはもう忘れてしまったけれども、あの日から起きたことは目に焼き付いて忘れられない」と言われながら、御自身の壮絶な体験をお話しくださったことが強く印象に残っています。

また、森内さんは昼食の時間からこの日のプログラムに参加してくださり、食事を参加者と共にしてからこの日の証言をしてくださいました。食事を通しての出会いを喜び、「ここには平和な顔をした人たちがいますよ。」とおっしゃってくださいました。

被爆後79年という時が過ぎ、被爆者の体験を直接聞くことができる機会が少なくなっています。長崎市では、被爆体験を次世代に引き継ぐために、被爆者の声を映像や、文章として残す取り組みが広く行なわれています。長崎原爆記念礼拝でも、一昨年、昨年はこの取り組みで作られた映像によって被爆体験講話を分かち合うができました。被爆体験をアーカイブとして残すことは非常に重要なことです。その気になれば、いつでも記録映像や文章から証言を分かち合うことができるからです。しかし、今こそ被爆証言を直接お聞きする機会を大切にしなければいけないと、今年のプログラムを通して強く感じました。被爆体験を話してくださる方と共に過ごし、その方の人柄を感じながら証言に耳を傾けることに計り知れない価値があると思うからです。

長崎市内では、8月9日の前後にさまざまな形で原爆殉難者を慰霊する集まりや式典が持たれています。長崎聖三一教会で行なわれる長崎原爆記念礼拝もそのような式典の一つと言ってよいでしょう。一方で、近年、被爆者の高齢化によって継続をあきらめた式典も少なくありません。原爆による惨禍を記憶し続け、平和への誓いを新たにするために、長崎原爆記念礼拝を大切に守り続けることができるよう願っています。

「キリストの平和」を学ぶ　広島平和礼拝2024

ー 平和宣教教育を継続して ー

平安女学院中学校高等学校チャプレン
司祭　エレナ 古本みさ

今年も管区の平和宣教教育活動資金から生徒たちの参加費の一部を援助いただき、中1から高3までの生徒7名と共に、8月5～6日に行なわれた神戸教区主催の「広島平和礼拝」に参加してきました。今年も若い世代に、キリストの平和を共に学び、祈る尊いひとときを提供することができたこと、心より感謝申し上げます。

昨年も書かせていただきましたが、この旅は毎年、関西圏の聖公会関係学校合同での事前学習会に始まります。今年は7月15日に神戸聖ヨハネ教会に、神戸国際大学附属高等学校、松陰高等学校、プール学院、平安女学院からの平和礼拝参加者が集まりました。プログラムのメインは、広島女学院の生徒をお招きし、学校での平和教育について、また同校で始められた核兵器廃絶のための署名活動や被爆体験を後世に伝えるプロジェクトについてお話を聞き、それぞれの思いを分かち合うことです。学年も学校も超えて、新しい友に出会い、普段は授業以外で話題にすることのないようなテーマに真剣に向き合うことで、平和礼拝へ心を向けていきました。

8月5日は朝7時に京都駅に集合し、改札前でお祈りをして、新幹線で広島へ。いったん荷物を広島復活教会に預け、原爆ドームへ向かいました。広島女学院の生徒たちによる「核廃絶！ヒロシマ・中高生による署名キャンペーン」に参加するためです。プール学院、松陰高等学校の皆さんもご一緒されました。これは、広島女学院の生徒たちが2008年に始めた活動で、今や全国へ広まり、集められた署名は毎年国連本部へ送られています。最初はどうしてもモジモジしてしまい、なかなか声の出なかった生徒たちも時間が経つごとに積極的に道行く人たちに声をかけられるようになり、せっせと署名を集めていました。今年は昨年にもまして外国からの訪問者が多く、全世界から集まったたくさんの方々が、制服姿で懸命に協力を呼びかける生徒たちに関心を持って近づいて話しかけてくださっていました。

その後、原爆資料館へ入りましたが、そこも日本人よりも外国の方の方が多く感じられました。あまりに大勢の人で展示を見る列の動きが非常に遅く、生徒たちはしんどくなって飛ばしながら見るかなと思いきや、予定時間間際に何人もの生徒たちから時間を延ばしてほしいとのLINEが入り、涙をぬぐいながら原爆の残した痛みと悲しみの展示に見入る生徒たちを見て、私も胸を熱くしました。

午後3時からは、広島復活教会へ戻り、2歳の時に疎開先で被爆された月下美孝さんによる被爆証言を聞きました。腹話術を用いた和やかな雰囲気でお話が始まり、原爆の悲劇そのものについてというよりも、平和を実現するために今私たちにできることは何だろうか?ということについて丁寧にお話しくださいました。その中で紹介くださった「ハチドリのひとしずく」という小さな絵本の言葉は私たちの心深くに染みわたっていきました。

午後6時半からは、また平和公園へ戻り、カトリック教会との合同の祈り「平和のためのつどい」に参加しました。大勢の人が集まり、湿気の多いまとわりつくような空気の中でしたが、心の中には愛に満ちたキリストの平和がやさしい風となって吹くようでした。

終了後、再び広島復活教会へ戻り、恒例と

なった広島風お好み焼きを食べながらの聖公会関係学校の生徒たちの交流会です。一日の疲れと暑さでへとへとではありましたが、とても有意義で楽しい時間となりました。自己紹介も兼ねて、平和をつくるために自分たちにできることをざっくばらんに話し合うですが、私のいた神戸国際とプールの生徒たちのテーブルでは、一人の生徒の口から「やっぱりほら、あれじゃない？聖書の、あなたと同じように隣人を愛しなさいってやつじゃない？　それができれば絶対平和になるはず！」というのがポンと出て来たのには、同じキリスト教学校のチャプレンとして本当に誇らしく、嬉しく思いました。そしてその後も「でも、愛するって… 難しくない?」と深い話へとつながってゆくのでした。

8人雑魚寝の宿舎に着くと、バタンキューかと思いきや、オリンピックのバレーボールを皆で叫びながら観戦し、大家族の母のような私の叱り声も空しく夜更けまではしゃぎ倒していました。

翌朝、広島復活教会にて原爆投下時間に合わせての聖餐式に参加し、全国から集まった方々と共に祈り、柴本司祭のお説教を心に染みわたらせながら、今年も広島に生徒たちを連れて来れたことを心から神さまに感謝しました。帰り、福山で途中下車して、ヨーロッパでアンネの父オットー・フランクに偶然出会った牧師が日本の子どもたちに平和の尊さを伝えるためにと設立した「ホロコースト記念館」へ足を運びました。これまた悲しみいっぱいの場所でしたが、生徒たちとともに、平和をつくる人になりたい、ならなければという思いを一層強くしました。9月の文化祭で生徒たちはこの旅について発表し、核兵器廃絶を呼びかけます。

広島平和礼拝 2024 に参加して

平安女学院高校３年
清水萌子（しみず・もね）

私自身、広島の原爆ドームに訪れたのは初めてでした。写真では何度も見た原爆ドーム。初めてこの目で見た時、原爆ドームは美しい夏の青空に包まれていました。原爆投下当時の天気も快晴。今から79年前、後に「原爆ドーム」と呼ばれることとなったこの建物も今日と同じような空を見ていたのだろうかと思うと、心の奥底に何かを訴えかけてきていうような感覚に陥りました。その何かとはもちろん「平和」です。平和というのは本来、人の心の中に必ず存在するものだと私は思います。しかし、それと同時に一番脆く、失われやすいものだとも感じます。なぜなら平和には完璧な答えはなく、目に見えるものではないからです。百人いれば百人それぞれ違った平和の形が存在します。しかし、実際に広島に行くことで「平和」が目に見えたような気がしました。原爆ドーム付近で行なった核廃絶の署名活動、広島平和記念資料館で戦争とは平和とは何かを自らの手で探そうとする人々、慰霊碑の前で祈りを捧げる人々。全ての人の目に「平和の姿」が写っていたように思います。

私も核廃絶の署名活動をしていると、日本人だけでなくさまざまな国から来た外国の方々も署名に参加してくださいました。中には温かい言葉をかけてくれる方もいて、なんだか世界がみんなが思い描く平和になるまであと一歩のような錯覚さえ抱きました。しかし、署名活動の途中

で一組の外国人の方に署名の協力をお願いをしたところ「No, thank you」という言葉が返ってきました。その方が急がれていたのか、核廃絶に反対している方だったのかは分かりませんが、その時改めて平和を築いていくことへの難しさを身に染みて感じました。やっぱり、核兵器を世界から無くすことはできないのか、そんな気持ちを抱きながら広島原爆逝去者記念礼拝に参加しました。そこで「私たちは原子爆弾が如何に恐ろしい殺戮兵器であるかを知っています。しかし、今もなお、核兵器を保持することによって、平和が維持できると、多くの人たちが固く信じています。どうかこの人たちの目を開いて、核兵器廃絶へと導いて下さい。」（一部抜粋）という祈りを聞きました。それを聞いた時、やはり私が唯一の核兵器被爆国である日本に生まれたからこそ果たさなくてはならない責務があるのではないかと思いました。原子爆弾の恐ろしさを心で身体で学んだ今、ここで諦めてしまっては一生実現することはないでしょう。79 年という長い間、長崎が世界最後の被爆地であり続けるためにたくさんの人々の努力と願いが受け継がれてきました。次は私たちが受け継いでいかなければならないのです。私たちの代で世界から核兵器を廃絶するその日までこの挑戦は続く。

今回この貴重な機会をいただいたこと、心から感謝いたします。

広島平和礼拝 2024 に参加して

平安女学院中学３年
土井美晴

私達は、平和礼拝のために8月5日と6日の2日間広島に行ってきました。その中で特に印象に残ったことを書きたいと思います。

広島に着くと、まず、全校で作った折り鶴を平和公園におささげしました。生徒と先生一人ひとりの平和への願いと祈りが詰まった千羽鶴はとても重く感じられ、他の学校や団体から送られた多くの千羽鶴の中に納める時には緊張しました。

その後、原爆ドームの前で核廃絶のための署名活動をしました。かなり暑かったですが、たくさんの署名に協力いただけたのでうれしかったです。

署名活動が終わった後は、原爆資料館を見学し、その後、教会で月下美孝さんの被爆証言を聞きました。特に印象的だったのは、腹話術を使い、人形と戦争について話をされていたことです。それは見ていて、祖父が体験したことを孫に教えているかのようでした。

それからいくつかの礼拝に参加しました。礼拝は、8月6日、広島市に投下された原爆により亡くなられた方々へ追悼を行ない、これからの平和を願う毎年行なわれる重要な行事です。礼拝の始まりに行なわれた黙祷の時間は、心に深く響きました。多くの人々が集まり、静かな空気の中で一緒に祈るということは、特別なものだったからです。礼拝の中で、原爆によって命を奪われた方々のことを思い、彼らの無念や悲しみを感じることができました。そして、私達が今こうして平和な日常を送ることができるのは、先人たちの犠牲の上に成り立っていることを改めて実感しました。

私は改めて戦争の悲惨さを感じ、戦争は二度と繰り返してはいけないと感じました。

広島復活教会の皆さんと平安女学院の生徒たち

世界の聖公会の動向

☆英国の大聖堂、夏のアミューズメントパークとなる
☆エルサレムの教会指導者たちが戦争の終結を緊急要請

管区事務所渉外主事　司祭　ポール・トルハースト

○英国の大聖堂、夏のアミューズメントパークとなる

この夏、多くの英国の大聖堂では特別な活動が催され、休日の雰囲気が漂っていた。これは各大聖堂がどのように革新的な来訪者用のプランを採用しているかを表す、英国の夏の風物詩となっている。過去数年間、ノーリッジ大聖堂は回廊で「ヘルタースケルター」（※螺旋状の大型滑り台）を開催し、訪問者がその素晴らしい天井を新たな視点で見る機会を提供してきた。また一方で聖オルバンズ大聖堂では、グラフィック・アーティストを招いた。

どの活動も単独のイベントというよりも、環境やコミュニティといった広い概念に来訪者が気軽に関われるような、より大きな計画の一部として捉えられている。

英国各地の教会関係者は、夏の間中こういったイベントを開催することは、より幅広い聴衆、特に何もなければ大聖堂に入ることすらなかったかもしれない人々と関わるための、理想的な方法であると述べた。

多くの活動は無料または低料金で提供され、静寂と祈りのためのサイドチャペルも確保されているため、誰もが楽しめるものとなっている。

今年、内陸地に位置するリッチフィールド大聖堂が、砂浜、デッキチェア、子供向けアクティビティ、さらには手品師まで登場させ、浜辺を演出した。

大聖堂のスタッフであるヴィッキー・オズボーン氏は、このコンセプトは理想的だと説明している。「このビーチこそ、皆さんにホスピタリティ（リラックスして他の人との交流を楽しむ場所）や希望（海辺を訪れる手段がない人のための）、癒し（リフレッシュして気持ちを高める機会）、神聖さ（信仰の重要なテーマについて考え紹介する場所）を提供するものです。」

バーミンガムの聖フィリップ大聖堂には巨大な観覧車が設置され、35 メートルの高さから大聖堂や街の素晴らしい眺めを楽しむことができた。それぞれの設備にはバーミンガムの物語や文化についての解説があり、大聖堂に飛び込めば、19 世紀に作られた見事なステンドグラスや窓からの景色を楽しむことができた。

ピーターバラ大聖堂は、アニマトロニクス（※生物を模したロボットを使って撮影する技術）による海の生き物たちに占拠された。主任司祭のクリス・ダリストン師は「海の怪物」として知られるこの展示について、「人々を海洋史の不思議へといざない、海洋生物の驚くべき多様性への理解を深めること」を目的にしていると語った。

同氏は、さらにこう付け加えた。「展示と並行して、科学アクティビティや家族向け工作セッション、海中ヨガ、音楽によって癒し・興奮・閃きを促す音響体験など、海をテーマにした数多くのアクティビティが用意されています。専門家による一連のオンライン講演では、聖書と関連させ、気候変動について探求する機会も提供されています。」

ウースター大聖堂は中世の村を再現し、語り部、アーチェリー、講演、図書館ツアー、ダンスワークショップ、さらには王様にふさわしい宴会まで開催した。

グロスター大聖堂は、回廊の床にフランスのシャルトル大聖堂の 13 世紀のラビリンス（迷宮）のレプリカを敷き、娯楽と瞑想を組み合わせた。巡礼者たちは何千年もの間、祈りと瞑想を結びつける方法としてラビリンスを歩いてきた。このレプリカは現代の来訪者に静寂をもたらすだけではなく、子供たちにとっても魅力的なアトラクションとなった。

カーライル大聖堂では、「星空の下（もと）で休む」こ

とさえできた。来訪者が山、渓谷、海岸線など教区のさまざまな地域を表現した日よけの下を通り、南通路を散策すると、デッキチェアやクッションがずらりと並んでいて、座ってくつろぎながら天井画の星々を眺められるようになっていた。

この仕掛けについて、あるスタッフは次のように述べている。「カーライル大聖堂は、星を眺めるための安らぎの場所へ変わりました。ここ数十年で信仰心が薄れ、ますます世俗的になりつつある英国の人々に、天へと繋がる新たな方法を与えたことでしょう。」

○エルサレムの教会指導者たちが戦争の終結を緊急要請

8月26日、エルサレム教会の総主教たちは声明を発表し、「現在の戦争を終結させ、死と破壊の続行からいのちと平和の促進へと早急に転換する必要がある」と呼びかけた。

エルサレムおよび中東聖公会の首座主教であり、エルサレム教区主教でもあるホサム・ナウム大主教も、その声明を発表したうちの一人である。

『「平和を造る人々は、幸いである　その人たちは神の子と呼ばれる。」（マタイ5:9）

現在の壊滅的な戦争が12ヶ月目へ近づいている今、私たちエルサレム教会の主教たちはその悲惨な方向性に対し、改めて深刻な懸念を表明せざるを得ません。これまで私たちや国際社会が繰り返し暴力の緩和を求めてきたにも関わらず、愛すべき聖地の状況は悪化の一途をたどっています。

何百万人もの人々が、家を奪われ破壊され、難民として避難生活を余儀なくされています。何百人もの罪のない人々が、毎週無差別攻撃により殺害され、重傷を負っています。飢えや渇き、感染症に耐え忍ぶ人も数え切れません。中には完全な監禁状態に置かれ、監禁者からさらなる虐待を受ける危険にある人もいるでしょう。また、戦場から遠く離れた村や牧草地、農地に対しても歯止めのない攻撃があり、人々は苦しんでいます。

こんな状況下でも戦争の当事者たちにより、停戦交渉は延々と引き延ばされてきました。それは死と破壊の続行に終止符を打つよりも、政治的な忖度を重視しているように見えます。度重なる遅延は他の挑発的な行為と相まって緊張感を高めるだけ高め、今、私たちは本格的な地域戦争の瀬戸際に立たされています。

この憂慮すべき事態に鑑み、私たちエルサレム教会の総主教たちは戦争の当事者たちに対し、私たちや国際社会の呼びかけ（国連安全保障理事会決議第2735号）に耳を傾けるよう強く求めます。迅速な停戦合意によって、戦争の終結、すべての捕虜の解放、避難民の帰還、病人や負傷者の治療、飢え渇く人々の救済、破壊されたすべての公共および民間の建造物再建に繋がっていきますように。

同じく重要なこととして、私たちはこれらの当事者たちに対し、国際社会と協調し長年の不満に対処する外交協議を遅滞なく開始し、正当な二国家間解決を行なったうえで、この地域における公正かつ永続的な平和を促進する具体的措置に繋げていくよう呼びかけます。

エルサレムに住むすべての人々にとって、最善策となるためにこの呼びかけを行なう一方で、私たちの司牧下にあるキリスト教コミュニティに対し、特別な配慮を表明します。その中には、ガザの聖ポルフィリオス正教会や聖家族カトリック教会に避難している人々、そしてアル・アハリ聖公会病院の勇気あるスタッフとその治療下にある患者たちも含まれています。私たちは、今も、そして戦争が終結した後も、人々に継続的な祈りと支援を誓います。そして戦争が終結した後は、ガザと聖地全体でキリスト教の存在を再建し強化するため、共に努力していきましょう。

最後になりますが、私たちキリスト者と、世界中すべてのキリストに連なる人々に、先に引用したキリストの言葉を思い出しながら、戦争で引き裂かれたこの地域全体でいのちと平和のビジョンを推進するよう訴えます。「平和を造る人々は、幸いである　その人たちは神の子と呼ばれる。」（マタイ5:9）極度の危機的状況にある今、私たちは皆、全能の神の恵みによって、すべての神の子どもたちの間に平和という神聖な未来像が実現し始めることを願い、共に働き、祈りながら改めて取り組んでいきます。』

原発のない世界を求める

Zoom Café のご案内

世界の声に耳を傾けよう
＜神が創られた自然・世界・社会＞

100% 自然エネルギー

2011 年 3 月に発生した東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故は、多くの住民の生活や生業を奪い、長年住み慣れた土地やかけがえのない人間関係さえも破壊してしまいました。この出来事によって、私たちは「**核といのちは共存できない**」ことを深く心に刻むことになりました。

私たちは「原発のない世界を求めて祈り行動する者」として用いられることを望んでいます。
2 ヶ月に 1 度 （偶数月第 3 土曜日） の Zoom Café は、そのために学び、自由に語り合い、分かちあう場所です。　参加申込、参加費は不要です。

お好きな飲み物などを用意して、Zoom リンクからお気軽にご参加ください！

2024 年 10 月 19 日　14:00~15:30

読書 と 茶っと
『脱原発の視点で聖書を読む』　＜前編＞

日本福音ルーテル教会 社会委員会　編

脱原発の問題を信仰の問題として、また倫理の問題として考えてゆくためのテキストとして、また、キリスト者が聖書を通して脱原発を学ぶ資料として大変有効な冊子です。

教会は、なぜ脱原発を訴えるのか？　日本福音ルーテル教会社会委員会編のブックレットを一緒に読んで、疑問や感想を出し合いながら考えてみませんか。10 月は前編の 1 章から 5 章までを読み進めていきます。ブックレットは皆さんの教会に 1 冊ずつ配布されています。Zoom Café にはブックレットがなくても参加できますが、お手元にご希望される方には事前にお送りします。

日本聖公会管区事務所までお知らせください。（general-sec.po@nskk.org 矢萩）

Zoom リンク：https://onl.bz/UA3pSej

ＩＤ：820 1414 1653　　パスコード：822900

原発問題プロジェクト web サイト：
https://www.nskk.org/province/no-nuke-project/

主催：日本聖公会正義と平和委員会　原発問題プロジェクト

お問い合わせ：090-1983-7244 (池住 圭)

管 区 事 務 所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話　(03)5228-3171
FAX　(03)5228-3175

日 本 聖 公 会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

2024 年 8 月

日本聖公会各教会の信徒・教役者のみなさま

済州「日韓友情の家」建築募金のお願い

日韓協働委員会　委員長　主教　磯　晴久
管区事務所総主事　　司祭　矢萩新一

＋主の平和

1984 年に日韓聖公会の宣教協働が公式に始まり、10 年ごとに記念大会を開催して交流と学びを重ね、相互理解を深めてきました。2014 年の 30 周年記念大会は韓国・済州で開催し、宣教協働を振り返り、新たな 10 年に向けた取り組みについて協議し、11 項目の共同声明にまとめました。日韓合同会議の度にその進捗状況を確認し、互いの宣教課題を学ぶフィールドワークを行いつつ、日韓青年セミナーや韓国社会宣教スタディーツアーも実施してきました。

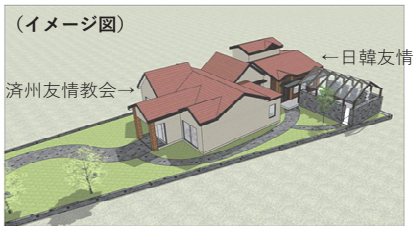
現在、K カルチャーなどを通した若い世代の交流が活発な一方で、在日コリアンへの排外主義に基づく憎悪犯罪も起こっています。このような中で、政治的な日韓関係にかかわらず、この 40 年間の両聖公会の「誠心の交わり」の結実をもとに、未来の宣教協働に向けて、今年 10 月には済州で日韓聖公会宣教協働 40 周年記念大会を予定しています。

30 周年共同声明の中で、『両聖公会は「風の島を聖霊の島へ」という済州教会の宣教ビジョンを共有し、「生命、正義、平和」を求める共同の信仰的実践を模索する。』とあり、昨年 2023 年 9 月に「済州友情教会」が新たな宣教地を得て礼拝堂聖別式を行ない、日本聖公会からも首座主教と日韓協働委員らが参列しました。そしてこの度、「日韓友情の家（同教会の牧師館を改修）」の建築が始まり 9 月末には完成して、40 周年記念大会中の 10 月 23 日に祝福式が予定されています。

「日韓友情の家」は、日韓聖公会の和解と協働の象徴として、リトリートや学びを目的とした済州島への来訪者を宿泊も含めてサポートするための施設です。

改修工事費は 1 億 2 千万ウォン（約 1,300 万円）で、大韓聖公会から日本聖公会への協力要請があり、管区として 600 万円の献金を常議員会で承認していただき、加えて、全国の教会のみなさまへも募金をお願いする次第です。

目標額は 100 万円、募金期間は 10 月 15 日までとさせていただき、10 月の祝福式の際にお届けしたいと考えております。ご協力いただける教会・個人の方は、管区事務所へご送金いただければ幸いです。



★管区からお送りしている郵便振替用紙をご利用の場合
⇒その他欄に「日韓友情の家のため」と明記の上、ご使用ください
★口座への送金の場合
⇒下記の口座のいずれかにご送金くださり、送金の旨を管区事務所へお知らせください。
・ゆうちょ銀行振替貯金
００１２０－０－７８５３６
「ニッポンセイコウカイ（日本聖公会）」
・三菱ＵＦＪ銀行飯田橋支店
（普）４５１５５４７
「ニッポンセイコウカイ（日本聖公会）」

－The Anglican Church in Japan－

日本聖公会管区事務所ホームページ http://www.nskk.org/province/
☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。
comm-sec.po@nskk.org　広報主事（鈴木 一）宛て